

2018  
おもろ  
チャレンジ

## メキシコの音楽 Son Jarocho の修得方法と 音楽観をめぐる調査

総合人間部 4年

池上 温人

メキシコ

2018年8月2日-

2018年10月1日



### 渡航概要と内容

8月2日から10月1日までの2か月間、メキシコ合衆国にて民俗音楽 Son Jarocho の調査を行った。

調査内容は、音楽の修得方法の変化に伴う音楽観、演奏形態・方法への影響だ。Son Jarocho は Fandango と呼ばれる祭り、宴会において実践される音楽である。その主眼は、地域での共生、交流を図ることに置かれて来た。現在、音楽の楽譜化、録音、動画機能や動画配信サイト、SNS などの普及により音楽の修得形態が変化してきている。異なる方法で音楽を学ぶことで、演奏される音楽に違いは表れるのか、交流の場において態度・姿勢に違いがみられるのか、というのが今回の調査のテーマであった。調査はインタビューと実践の場の観察を中心に行った。

インタビューは、複数地域で計30人以上の演奏者を対象に行った。それぞれ2、30分程度で個人の来歴、音楽経験、Son Jarocho 観などに関する質問をぶつけ、回答、反応を見た。音楽中心地から、他州都市部まで、子供から老人まで幅広くインタビューすることを心掛けた。

実践の場の観察では、Fandango とレッスンの観察を行った。Fandango は4地域7つの Fandango に参加、観察した。レッスンは、4地域5つのレッスンに参加・観察した。



インタビュー、観察をするにあたって調査計画を立てにくいのが、今回の計画の難点であった。アポイントメントの取り方、紹介を通じての出会いなど日本の感覚とは異なる人々の距離感に多少の戸惑いを覚え、対応するのに苦労した。結果、今までの交友関係を大幅に超えた人々を対象に調査を行うことができた。次回以降につながるインフォーマントづくりにもなった。

## ■ 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回は、Son Jarocho という対象を調査・研究するというスタンスでこの企画に参加、ついで卒業論文にする。学問的調査の下準備、実施、観察、まとめを一通り海外で行うという経験を得られたのは大きい。

だが一方で、研究・調査のみが対象への接近方法ではないことも重々思い知った。大学という場にいる以上、研究・調査が第一目的になってしまいがちだ。その枠にとらわれていては見えない、けれど十分に興味深いものも大いにある。

フィールドワークへの興味と意欲は尽きないが、それをアウトプットする形として自分自身に学問的な論文といった方法が適しているかどうか、疑問に思うようになった。

## ■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

海外での調査を計画し、準備を進め、実行するという経験は大きな収穫であった。その上で、今後の海外での活動を学問的調査に限定するつもりはないが、テーマを定めた海外長期滞在は今後も頻繁に実施したい。

また民俗音楽という分野への興味が深まった。今回は、メキシコの一州、一地域の音楽を対象にした調査であったが、今後は同国内他地域や、他国でも民俗音楽の調査、比較してみたい。

また今回はスペイン語で調査を進めたが、日本語以外の言語での活動という点でも今回の活動の意義は大きかった。母語以外での活動の難しさ、限界を痛感した。時間をかけるほど、その言語で収集できる情報は増えてくる。しかし、同時に理解できない部分が存在することもより鮮明に思い知らされる。不足する言語分をどう補うのかも一つの手腕かもしれない。言語とともに、現地流の仕事・調査の進め方、関係各位とのコミュニケーションの経験は他のフィールドでの活動にも十分生かされるはずだ。

## ■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

下調べ、準備を入念にすることの重要性を感じた。日本で得られる情報と現地で得られる情報は大きく異なる。現地では、書物などと違って体系だった情報が得られないこともある。特に海外経験の少ない学生にとっては日本での下調べで対象の概要をつかんでおくことは重要になってくる。

その上で、現地で事前情報との矛盾、食い違いが生じるものだとも思う。事前の計画とは活動の路線が変わってしまうこともあるかもしれない。事前の準備は重要だが、その情報を必要とあ

らば捨象し、現地でのチャンスを最大限に活用することもまた重要だろう。

## ■ 主な奨学金の使途

\*渡航費

\*現地移動費

\*現地調査費・資料代

\*海外旅行保険 など